# 特別支援教育の論文評価

## 城南中・久安教頭に優秀賞

教育発展の一助として、読売新聞社が毎年開催している「第69回読売教育賞」の受賞者がこのほど発表され、新宮市立城南中学校の久安孝典教頭（42）が出品した実践論文が「特別支援教育」の部門で優秀賞に選ばれた。

同賞は1952年（昭和27年）に創設。教育現場で意欲的な研究や実践に取り組んでいる教育者や関係団体を全国から選考し、その功績を毎年顕彰している。教科別13部門に、今年は全国から153点の応募があり、厳正審査の結果、最優秀賞9点、優秀賞21点を選んだ。

久安教頭は「特別支援教育コーディネーターを中心とした『校内支援体制』の構築について」をテーマに執筆した。同校での実践報告を中心に、小中高校の連携の必要性、学校と保護者、教員同士の橋渡し役を任務とするコーディネーターの仕事内容など、写真や図表も交えながらA4用紙11枚にまとめた。1か月程度かけて仕上げたという。

「読売教育賞」の優秀賞の盾を持つ久安教頭

応募のきっかけは、新型コロナウイルス感染拡大に伴う休校期間中、教育委員会を通じて学校に応募要項が届き、これまでの自分の取り組みについて見直してみようと決意した。受賞には「身に余る光栄。個人で取り組むものではなく、学校全体で取り組んでいたものなので、代表して賞を受けたと思っている」と喜んだ。

久安教頭は、平成12年4月、県立みくまの支援学校で教員生活をスタート。同19年4月から緑丘中、同23年4月から城南中に赴任し、いずれも学校長が任命する特別支援教育コーディネーターを務めてきた。同24年には2か月間独立行政法人特別支援教育総合研究所長期研修（視覚障害コース）に臨み、同27年には和歌山県教育センター学びの丘長期研修員として1年間勤務した。同29年には当地方の中学校で初のLD（学習障害）等通級指導教室の担当教員になり、同31年4月に城南中で教頭に昇任以降も特別支援教育コーディネーターを務めている。

「学校の中で教員はさまざまな役職を担っているが、特別支援教育コーディネーターはあまりなじみがないと思う。今回の論文では自分が携わってきた13年間で感じたこと、これからの課題についてまとめたので、皆さんに少しでも知ってもらう機会になればうれしい」と話した。

（深瀬浩司）